

検討を行った。

〔方法〕①血漿中からの LDL の単離は NaBr を用いた密度差の重層による超速心分離法を採用した。② glycosylated LDL の分離は固定化レクチン (Con-A; フェルマシア社) とカラムとによる affinity chromatography で 0.3M D-glucose で抽出した。

〔結果〕分離した glycosylated LDL について、0.75 %アガロース電気泳動で定性したところ、コントロールの LDL に比し、その移動度が早い結果が得られた。

今後、この glycosylated LDL を用いた血管壁に対する影響 (代謝) の検討並びに定量的 (臨床応用) な確立を行う予定である。

5) 当科におけるパネコースト肺癌の臨床像と治療成績

小田 純一・島田 克己 (新潟大学放射線科)
斎藤 真理・酒井 邦夫

1968年-1985年の18年間に当科を受診した Pancoast 型肺癌25例につきその臨床像と治療成績を検討した。

1) 臨床症状としては胸痛・背部痛がほとんどの症例でみられ、上肢痛・しびれが約半数にみられた。また、Horner 症候群を呈したものは4例と少なかった。

2) 初診医としては外科などの内科以外の科を受診しているものが 1/3 であり、内科に受診したもののでもその約 1/3 が神経痛として治療を受けていた。また、病歴期間は平均4.5カ月と長かった。

3) 組織型は、扁平上皮癌と大細胞癌が半数をしめたが、小細胞癌も3例みられた。

4) 転移部位としては脳、リンパ節 (胸腔外) が多かった。

5) 予後は、放射線・放射線+手術、のいずれの治療でもきわめて不良で、2年生存は1例のみであったが、除痛効果は放射線治療例の 3/4 の症例で認められた。

6) 琉球大学付属病院における放射線治療患者の疾患分布

末山 博男・諸見里 秀和 (琉球大学放射線科)
久志 享・中野 政雄

7) 画像上、小さな Extra-axial Tumor を思わせた脳表の Glioma の1例

—MRI と CT の対比—

登木口 進・倉島 昭彦 (新潟大学歯科)
岡本浩一郎・伊藤 寿介 (放射線科)
亀田 宏 (立川総合病院 脳外科)

CT では明らかでなかったが MRI で小さな Extra-axial Tumor を思わせた。脳表の Glioma (astrocytoma grade II) の1例を報告した。MRI では Tumor は IR (2000/500) で low intensity, SE (2000/40) で high intensity であり、脳溝を広げるように存在していた。CT では単純、造影とも low density であったが、明瞭ではなかった。本例のように病変が小さく、頭蓋骨直下にあるため CT では明らかでない小病変を有する部分でんかんに、MRI は今後、積極的に応用されるべきである。本例は37歳女性で、adversive seizure で発症した。

8) 中枢神経画像診断、その将来展望

伊藤 寿介・登木口 進 (新潟大学歯科)
倉島 昭彦・岡本浩一郎 (放射線科)

記 念 講 演

画像医学 1987

蜂 屋 順 一 先生 (杏林大学)

第63回新潟臨床放射線学会

日 時 昭和62年12月19日 (土)

午後2時より

会 場 新潟大学医学部 第II講義室

一 般 演 題

1) 股関節 Avascular Necrosis の SPECT

清野 泰之・木村 元政 (新潟大学放射線科)
小田野 幾雄

臨床的に大腿骨骨頭 Avascular Necrosis (AVN) が疑われた16症例、32関節に対し骨シンチを施行し、Planar 像及び SPECT を撮影した。Planar 像で大腿骨骨頭への集積が陽性とした27件中、SPEC で骨頭への集積が確認されたものは11件のみであった。他の16件は実際に